

原爆被爆者の長期追跡調査[§]

Long-term Follow-up of Atomic Bomb Survivors

坂田 律 Eric J Grant 小笹晃太郎

要約

寿命調査(LSS)は、放射線の人体影響を調査するための原爆被爆者の追跡研究であり、60年以上にわたりデータの収集が続けられている。LSS 集団は 93,741 人の原爆被爆者と、性および年齢をマッチさせた 26,580 人の原爆時にどちらの市にもいなかった人で構成される。放射線量は被爆時の個人の位置と遮蔽状況に基づき計算されている。死亡時の年齢と死因は日本の戸籍制度を通して、また、がん罹患データは広島・長崎のがん登録を通して把握されている。LSS の副次集団からは、2 年に一度の健康診断を通して非がん疾患罹患や健康情報も把握されている。放射線は死亡(1 Gy で 22%)、がん罹患(1 Gy で 47%)、白血病による死亡(1 Gy で 310%)、ならびに幾つかの非がん疾患(甲状腺結節、慢性肝疾患および肝硬変、子宮筋腫、高血圧など)のリスクを有意に増加させる。成熟(発育遅滞、早期閉経など)についての有意な影響も観察されている。原爆被爆者の長期追跡研究は、被爆者の健康リスクについて信頼性の高い情報を提供してきており、労働者および公衆の放射線防護基準の基礎を形成している。

[§] 本報告書は *Maturitas* 2012 (June); 72(2):99–103 (doi:10.1016/j.maturitas.2012.02.009) に掲載されたものであり、その正文は同掲載論文のテキスト(英文)である。この日本語要約は、日本の読者の便宜のために放影研が出版社(Elsevier)の許可を得て作成したが、本報告書を引用し、またはその他の方法で使用するときは、同掲載論文のテキスト(英文)によるべきである。 © 2012 Elsevier Ireland Ltd.